

平成29年度 日野市立日野第一中学校経営重点計画				自己評価シート				平成30年3月公表							
★学校教育目標								★重点計画の概要							
— 自ら考え学びつづける人 — 協力し全体に尽くす人 — 心豊かで思いやりのある人 — 進んで心身をきたえる人															
★目指す学校像（ビジョン）															
【めざす児童・生徒像】 自ら課題を発見し、考え、判断し、より良く解決しようとする意欲、態度、知恵を身につけ、自分と人、ふるさと（日野、日本、地球）を大切にする生徒。															
【めざす学校像】 安心、安全な学校環境の充実している学校。															
【めざす教師像】 一人一人が学校運営への参画をもち、教育活動を充実させるチームのメンバーである。															
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
子供	言語活動を充実させ、生徒の思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を向上させる	・校内研究に言語活動を位置づけ、主体的、対話的で深い学びを実現させ、生徒が実社会で生かせる学力の育成を目指す	・意図的、計画的な話し合い活動の充実 ・各教科における言語活動の年間指導・評価計画の作成・実施 ・研究授業を年5回実施する	4	4 言語活動の充実によく取り組んだ教員90%以上		4	4 話し合い活動を通して、考える力が高まったと感じる生徒80%以上		3年間の継続的な指導によって、多くの生徒が「考える力が高まった」と感じており、校内研究のテーマとして組織的に取り組んだ、成果が出ているのが数値にも表れている。	よく取り組んだ教員が100%という結果だった。校内研究のテーマが「言語活動」で、学校全体で組織的に取り組めた結果と思われる。生徒については、左記の質問に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒が3年生91%、2年生90%、1年生89、5%だった。全体的に高い数値だが、「よくあてはまる」の1年生が24、6%と、他学年（2年生33、8%、3年生30、3%）と比較して低いので、継続的に取り組むことで、考える力をさらに高めていきたい。				
					3 言語活動の充実によく取り組んだ教員80%以上			3 話し合い活動を通して、考える力が高まったと感じる生徒70%以上							
					2 言語活動の充実によく取り組んだ教員70%以上			2 話し合い活動を通して、考える力が高まったと感じる生徒60%以上							
					1 言語活動の充実によく取り組んだ教員60%以上			1 話し合い活動を通して、考える力が高まったと感じる生徒50%以上							
子供	規範意識の醸成に基づく、公民としての基礎となる資質・能力を向上させる	・気持ちのよいあいさつが自らできるようにする。 ・きまりやマナーを守ろうとする意欲、態度を育成する	・迅速、的確、誠実で、組織的な生活指導を継続する ・チャイム前には教室に行き、時間を守ることを徹底させる ・授業規律の徹底 ・道徳授業の充実	4	4 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員90%以上		4	4 礼儀作法、ルール、マナーをよく守り、自分も他人も大切にできた生徒90%以上		一中生の挨拶がしっかりしてきたと感じる。これだけ生徒数が増えている中で、一中は規律がしっかりと維持されている。学年が上がるにつれて「とくにあてはまる」の生徒が増えているのも、3年間の指導の成果である。	よく取り組んだ教員が100%という結果だった。生活指導では、情報共有を密にし、問題の早期発見、対応を徹底した。また、あいさつ運動や、休み時間の見回り、学年統一の道徳授業など、組織的な取組の成果と思われる。生徒の結果は、3年生97、1%、2年生94、8%、1年生98、3%と高く、学校全体が落ち着いているのが、このような結果からもわかる。「とくにあてはまる」については、3年生60、4%、2年生53、2%、1年生47%と、学年が上がるにつれて、生徒が成長していることが分かる結果となった。				
					3 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員80%以上			3 礼儀作法、ルール、マナーをよく守り、自分も他人も大切にできた生徒80%以上							
					2 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員70%以上			2 礼儀作法、ルール、マナーをよく守り、自分も他人も大切にできた生徒70%以上							
					1 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員60%以上			1 礼儀作法、ルール、マナーをよく守り、自分も他人も大切にできた生徒60%以上							
子供	自分を鍛え、強い心とやさしい心を育て、仲間や伝統を大切にする姿勢を向上させるとともに、一人ひとりの良さを伸ばす	・生徒会活動の充実。 ・部活動の充実 ・東京都スーパーアクティブスクール研究（3年間中の2年目）の推進 ・後輩が先輩にあこがれる教育の充実	・生徒会、委員会、行事等における上級生のモデルとなる取組の姿勢の強化徹底と継承 ・各部活動の目標指数の設定と取組の充実 ・体力向上、健康推進を担当部署を中心に、昨年度の成果と課題をもとに、引き続き推進する	4	4 あこがれの教育が充実できるよう積極的に取り組んだ教員80%以上		4	4 自分を鍛え後輩のモデルとなる活動ができた生徒70%以上		今年度は70周年記念行事における「一中魂の継承」という大きなテーマがあったが、来年度に向けて、これに変わる新たな目標設定が必要ではないか。また、これから先も「一中魂の継承」を続けていくためには、保護者や地域の協力が必要になってくるのではないか。例えば、あいさつ運動のますますの充実など。	よく取り組んだ教員が87%という結果だった。70周年記念行事の取組で「一中魂の継承」をテーマに学校全体で組織的に取り組んだことが、高い数値を示したと思われる。生徒については、3年生が86、6%、2年生が80、5%、1年生が79、6%で、「よくあてはまる」については、3年生が35、8%で1、2年生の17～18%という結果を大きく上回っていた。最上級生が、自覚をもって後輩のよきモデルとなり、後輩も先輩を見習って「一中魂」を継承しようとする意識がもてた結果であると思われる。				
					3 あこがれの教育が充実できるよう積極的に取り組んだ教員70%以上			3 自分を鍛え後輩のモデルとなる活動ができた生徒60%以上							
					2 あこがれの教育が充実できるよう積極的に取り組んだ教員60%以上			2 自分を鍛え後輩のモデルとなる活動ができた生徒50%以上							
					1 あこがれの教育が充実できるよう積極的に取り組んだ教員50%以上			1 自分を鍛え後輩のモデルとなる活動ができた生徒40%以上							
教職員・学校	安全・安心な学校環境の整備	・生活指導の充実 ・特別支援教育の充実 ・いじめの早期発見、早期対応、解決を目指す ・交通安全、生活安全、災害安全指導の充実	・全学年、全教員が共通理解の下、生活指導マニュアルに則して統一した指導を継続的に行う ・教育相談部会での情報共有を確実にし、特別な配慮を要する生徒に対する理解を全職員が深め、適切な対応を行う ・いじめ調査を含んだ生活アンケートを年8回実施し、組織的な対応を行い、早期発見、早期解決を目指すとともに、SNSなどの情報安全指導を充実させ、問題を未然に防ぐよう努力する ・東京都安全教育推進校の研究成果を生かした指導を継続する	4	4 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員80%以上		4	4 学校は安心して過ごせる場所であると感じている生徒80%以上		いじめについては、発覚しているものは氷山の一角であると考えるようにし、常にアンテナを高くするとともに、発覚したものについては、指導を徹底してほしい。また、防災については、災害には決まったパターンはないので、臨機応変に対応できる姿勢を身に付ける必要がある。	よく取り組んだ教員が96%という結果だった。教育相談部会での情報を全てで共有し、特別な配慮を要する生徒に対して適切な対応ができた。いじめについては、適切な対応ができたが、一部対応が遅れたケースがあった。問題行動に対しては迅速に組織的に対応できた。その他は安全指導は計画的に実施できた。生徒については、全学年が約85%と目標の数値には達したが、理想として、全ての生徒にとって学校が安心して過ごせる場所でありたいので、来年度に向けて、左記の取組を徹底し、100%を目指す。				
					3 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員70%以上			3 学校は安心して過ごせる場所であると感じている生徒70%以上							
					2 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員60%以上			2 学校は安心して過ごせる場所であると感じている生徒60%以上							
					1 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員50%以上			1 学校は安心して過ごせる場所であると感じている生徒50%以上							
教職員・学校	市の重点施策の充実	・授業のユニバーサルデザイン化 ・ICT活用教育 ・小中連携の充実	・全教員が、授業のユニバーサルデザイン化の深化に努める ・全教員が、年間指導計画に適切なICT活用場面を位置づけ、実施する ・一中学区の小学校と連携を深め、出前授業や小中連絡会における各分掌の情報交換を確実に行う	4	4 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員70%以上		4	4 先生の授業は分かりやすく、学力がついてきていると感じる生徒80%以上		土曜補習の参加率も高く、生徒の取り組みの雰囲気もよい。今後ますます力を入れてほしい。	よく取り組んだ教員が90%という結果だった。ほとんどの教員が授業にICTを効果的に取り入れるようになってきたが、授業のユニバーサルデザイン化については、教員間の取り組みの程度に差が見られるため、次年度の課題として、年度当初に確認し、徹底する。生徒については、3年生が87、2%、2年生が78、3%、1年生が87、7%であった。2年生は「よくあてはまる」も18、7%と他学年と比べて約10%低かった点と、各学年の10%～20%の生徒が学習に不安を抱えている点が問題点である。各教科ごと状況を把握し、授業改善や土曜補習の活用など、課題の解決方法を見出していく。小中連携については、年2回の連絡会や、合同引取訓練、出前授業を行っているが、今後も継続して取り組んでいく。				
					3 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員60%以上			3 先生の授業は分かりやすく、学力がついてきていると感じる生徒70%以上							
					2 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員50%以上			2 先生の授業は分かりやすく、学力がついてきていると感じる生徒60%以上							
					1 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員40%以上			1 先生の授業は分かりやすく、学力がついてきていると感じる生徒50%以上							
学校、家庭、地域・社会	ふるさと日野を愛し、大切にする意欲、態度の育成	・ふるさとを愛し、大切にする意欲、態度を育成する ・PTA、育成会、関係機関との連携の充実を図り、地域の大人に大切にされている実感を味わわせ、報恩の心情を育む	・PTAや育成会主催の活動に教員や生徒がより多く参加する ・地域等のボランティア活動に生徒を多く参加させ、人の役に立つ喜びを味わわせる機会を多く取り入れる ・教育活動に地域の専門家を招へいする機会を充実させる	4	4 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員60%以上		2	4 ボランティア活動に参加した生徒60%以上		小中交流会をはじめとして、一中生はとてもよく頑張っている。ボランティアについて、アンケートによって、生徒会主催のボランティアに限定した回答と、その他の回答で、異なる結果が出た点については、生徒の中でボランティアに対する認識が違っていることも考えられるので、ボランティアの定義について、確認する必要があるのではないか。また、3年生は1学期は行事や部活動中心の生活であったり、2学期は進路に向けての学習が始まるなど、ボランティアに参加しにくい状況ではあるが、今後より一層、社会に出てから必要になるので、計画的に参加させる意識を育てたい。	よく取り組んだ教員が80%という結果だった。家庭の事情等があっても、1回でも参加し、連携に関わろうとする教員が昨年度よりも増加した。生徒については、学校全体で40、8%と目標を達成できなかった。学年別では、1年生は53、9%、2年生は50、6%と半数以上の生徒がボランティア活動に参加したのに対し、3年生は18%という結果だった。受験等の影響があると考えられる。時期や内容を考慮し、3年生が参加できるボランティア活動の場を工夫する必要があると思われる。				
					3 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員50%以上			3 ボランティア活動に参加した生徒50%以上							
					2 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員40%以上			2 ボランティア活動に参加した生徒40%以上							
					1 左記、具体策をとともよく取り組んだ教員30%以上			1 ボランティア活動に参加した生徒30%以上							

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。